

科目名	女性学		
担当者	星野 智子		
学年	1	単位	2
クラス	全学科		
開講年度学期	2016年度 I 学期～Ⅱ 学期		
授業の目標(到達目標)	学生自身が多様な自己実現を考えられるように、「女性らしく」生きるのではなく、「自分らしく生きること」を理解する。人間らしく心豊かに現代社会を生きるために、女性が特に関係する法律や施策を知り、自分の能力を活かし、「満足のいく生き方」について思索出来ることが目標である。		
授業内容	現代日本社会が抱える女性問題を整理し、国際比較しながら改善策を教示する。たとえば、「妊娠・出産と労働」「セクシュアルハラスメント」「DV」などの日本の現状を説明し、他国の法律や施策を紹介する。学生が問題解決の方法を考え、自分に相応しい多様な生き方を探求できるように講義を進める。		
授業計画	1 女性学とは何か 2 ジェンダーとは何か 3 女性として得をしたこと・損をしたこと 4 女性が労働の場で差別されないための法律-男女雇用機会均等法 5 女性・男性が労働の場で共生するための法律-男女雇用機会均等法の改正(セクシュアルハラスメント防止含む) 6 セクシュアルハラスメント防止のためのDVD視聴と解説 7 妊娠・出産と労働を両立させるための法律-産前・産後休暇 8 育児と労働を両立させるための法律-育児休業法 9 育児休暇についてのDVD視聴と解説 10介護と労働を両立させるための法律-介護休業法 11介護についてのDVD視聴と解説 12親しい人からの暴力を許容しない法律-DV(ドメスティックバイオレンス)防止法 13ドメスティックバイオレンスについてのDVD視聴と解説 14 女性が自立し、多様に自己実現する国々 15授業の総括		
成績評価	【成績評価基準】 女性学の学問の特徴が説明できる、教示した法律と施策を理解している、学んだ知識を自分の生き方の参考に出来るかを評価基準とする。 【成績評価方法】 定期試験(70%)、授業内課題(10%)、受講態度などの平常点(20%)で評価する。		
他の科目との関係等学習上および履修上の注意点			
教科書			
書籍名	著者	出版社	出版年
「女性学・男性学ージェンダー論入門(改訂版)」	伊藤公雄	有斐閣アルマ	2011年
参考文献			
書籍名	著者	出版社	出版年
その他			
女性学に関連する情報を収集し、常に関心を高めて受講すること。前回の講義ノートやテキスト該当箇所を読んで、分からないところは質問すること。なお、私語・携帯メールや電話の操作・居眠り・無断の途中入退室など礼節から逸脱する行為は一切認めていない。			